

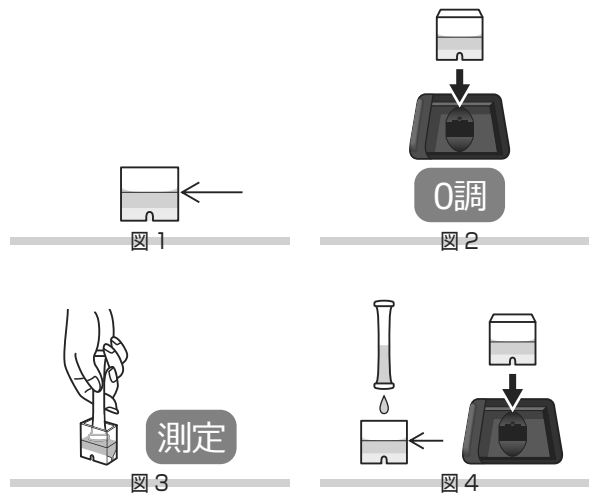
H₂O₂ 過酸化水素

発色：無色→淡紫→紫
測定原理：酵素を用いた 4- アミノアンチピリン法
測定範囲：0.10 ~ 2.50 mg/L (ppm)
試薬：WAK-H₂O₂ チューブ
測定時間：チューブに吸い込み後 2 分

セル：専用カップ
使用波長：539 nm, 590 nm

測定方法

- 1.【H₂O₂】を押します。
- 2.【決定】を押し、測定画面に切替えます。
3. 検水を、専用カップに1.5mL(線まで)採ります。(図1)
4. 専用カップをセルボックスに入れ、【0調】を押します。(図2)
5. パックテストのチューブに、専用カップの検水を全量吸い込み、同時に【測定】を押します。(図3)
6. 5. のチューブを軽く5~6回振り混ぜて、すぐに専用カップにチューブ内の測定液を静かに戻し、セルボックスに再びセットし静置します。(図4)
7. 経過2分後に濃度が自動表示されます。
プリンタが ON 状態であればプリントアウトされます。



注意

1. 発色時の最適 pH は 7 です。pH が 6 ~ 9 の範囲をこえる検水は希酸化ナトリウム溶液または希硫酸等で中和してから測定してください。
2. 検水の温度は 15 ~ 30℃ で測定してください。
3. 検水中の過酸化水素濃度が 25mg/L までは測定値が「OVER」と表示されますが、50mg/L 以上になると発色が薄くなり、測定範囲を超える検水でも測定値が得られることがありますのでご注意ください。

共存物質の影響

内蔵の検量線は、標準液を用いて作成しています。他の物質の影響が考えられる場合は、公定法と比較するか、標準液添加法により測定値を確認してください。

右表は、標準液に単一の物質を添加した場合の測定値への影響データです。

海水は影響しません。

Fe²⁺、NO₂⁻等の還元性物質は過酸化水素を消費します。

また、残留塩素やオゾン等の酸化性物質は正の誤差を生じます。

1000mg/L以下は影響しない	…Ag ⁺ 、B ³⁺ (ほう酸)、Ba ²⁺ 、Ca ²⁺ 、Cl ⁻ 、I ⁻ 、K ⁺ 、Mg ²⁺ 、Na ⁺ 、NH ₄ ⁺ 、Ni ²⁺ 、NO ₃ ⁻ 、PO ₄ ³⁻ 、SO ₄ ²⁻ 、Zn ²⁺
500mg/L	// …F ⁻ 、Fe ³⁺ 、NO ₂ ⁻
250mg/L	// …フェノール
50mg/L	// …Cr ³⁺ 、Cr ⁶⁺ (クロム酸)、Cu ²⁺ 、陰イオン界面活性剤
20mg/L	// …Al ³⁺ 、Co ²⁺ 、Mn ²⁺
2mg/L	// …Mo ⁶⁺ (モリブデン酸)
1mg/L	// …CN ⁻
少しでも影響する	…Fe ²⁺ 、残留塩素

試薬に関するお知らせ

パックテストに付属の使用法をご参照ください。

測定液は約 pH7 です。